

## 令和2年度教育研究活動報告書

氏名	藤本真理子	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	博士（文学）	職位	准教授
専門分野	日本語学（古典）		

I 教育活動	
本年度担当科目	
	授業科目
学部	日本語史、日本語学基礎演習、古典語学専門演習、卒業論文（構想・準備）（制作）、日本語学講義Ⅰ（古典語）、日本語学講義Ⅲ（古典語）
II 研究活動	
現在の研究テーマ（3つまで）	
（1）指示詞	
（2）文法	
（3）文献方言史	
本年度を含む過去3年間の研究業績 R2・R1・H30	
R2	<p>〈著書〉「指示詞」『日本語文法史キーワード事典』ひつじ書房、pp.51-52、令和2年12月</p> <p>〈論文〉「日本語指示詞の変容―聞き手の存在と結びついた「そ」―」（『日本語の歴史的対照文法』）（編者 野田尚史、小田勝）、単著、和泉書院、pp.137-156、査読無、令和3年5月頃刊行予定</p> <p>〈論文〉「地域のことばはどのようにして残るか―『三訪会会報』を資料のひとつに―」（『尾道文学談話会会報』第11号、pp.19-26、尾道市立大学、令和3年2月）</p> <p>〈論文〉「学科専門教育課程における「学びのプラットフォーム」構築の試み―学修データベースの構築と活用可能性に着目して―」（『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第20号、pp.136-139、尾道市立大学、共著、令和3年3月）</p> <p>〈発表〉「呼びかけの助詞「ヨ」の変遷―返事を期待しない働きとその特徴―」、第12回おのみち文学三昧、尾道市立大学日本文学会、Zoom開催、令和2年12月5日</p>
R1	<p>〈書評〉「学界展望 日本語の歴史的的研究 2018.7-2018.12」花鳥社、ホームページ掲載、令和1年10月31日</p> <p>〈報告書〉「絵を語る作家たち―近代日本における絵画と文学のあいだ―」（『尾道文学談話会会報』、尾道市立大学日本文学科、共著、令和2年3月）</p> <p>〈報告書〉「4月13日開催「沈黙研究会」@MOU尾道市立大学美術館 報告書」（『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第19号、尾道市立大学、共著、令和2年3月）</p> <p>〈報告書〉「平成三十年度公開講座 田島恵介氏「ことばの扉―いいかげんな漢字―」の報告」（『尾道文学談話会会報』、尾道市立大学日本文学科、共著、令和2年3月）</p> <p>〈発表〉「し系指示詞による事象力カテゴリーの指示」第11回若手研究者の会、令和1年9月5日</p> <p>〈報告〉「2019年度指示詞実験報告」、尾道で「ことばの会」、令和1年12月1日</p>
H30	<p>〈論文〉「中古の力（ア）系列とソ観念指示用法―古典語における知識の切り替わりから―」（『バリエーションの中の日本語史』（編者 岡崎友子・衣畑智秀・藤本真理子・森勇太）、単著、平成30年4月、くろしお出版、pp.103-118、査読無</p> <p>〈論文〉「指示副詞の形式と意味―古典語・甕島方言を通して」（『鹿児島甕島方言からみる文法の諸相』（編者 窪園晴夫、木部暢子、高木千恵）、単著、平成31年2月、くろしお出版、pp.229-248、査読無</p> <p>〈発表〉「古典語・現代の文脈指示と文体」（日本語文法研究のフロンティア―文法史研究・通時的対照研究を中心に―）国立国語研究所プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」平成31年1月13日、NINJALシンポジウム、招待</p>
H29以前の主な研究業績	
（1）〈著書〉『〈役割語〉小辞典』（編者 金水敏）、執筆分担担当、研究社、平成26年9月	
（2）〈著書〉『グループワークで日本語表現力アップ』、共著（野田春美・岡村裕美・米田真理子・辻野あらと・藤本真理子・稲葉小由紀）、ひつじ書房、平成28年3月	
（3）〈著書〉『ココが面白い！日本語学』（編者 岡崎友子・堤良一・松丸真大・岩田美穂）、執筆担当、ココ出版、平成29年4月	
（4）〈論文〉「もの言う動物―キャラクターとしての動物のイメージ―」共著 平成26年12月、『語文』第103輯、大阪大学国語国文学会、〈共同研究者〉岩田美穂・藤本真理子、pp.43-54、査読有	
（5）〈論文〉「〈聞き手領域〉に関わるア系列の指示―中世を中心に―」（『日本語文法史研究』3、ひつじ書房、平成28年12月）	
（6）〈論文〉「現実世界の対象を表さないソの指示―歴史的変遷をとおして―」（『語用論フォーラム2』、ひつじ書房、平成29年12月、査読無	

(7) 〈発表〉「ソ系列指示詞と不定語との関連—中古・中世を中心に—」日本言語学会、名古屋大学、平成27年11月、査読有
(8) 〈発表〉「古典語におけるソ系とア系の切り替わり—中古—」バリエーションの日本語史[シンポジウム1]「日本語指示詞における地理的・歴史的変異の研究」、平成28年4月
(9) 〈発表〉「高等学校生徒による方言教材作成 —〈篠山弁〉を事例として」(ブース発表 方言に関する教育活動) 日本方言研究会、平成29年5月、共同発表、査読有
学会、所属団体における活動 (本年度を含む過去3年間の研究業績) H30・R1・R2
所属学会・所属団体 役職等と任期
日本語学会(庶務委員：平成24年5月～平成25年4月)、日本言語学会(広報委員：平成30年4月～令和2年3月)、日本語文法学会、関西言語学会、土曜ことばの会(事務局員：平成24年3月～現在に至る)
IV 社会活動
1. 学外活動(本年度1年間の活動状況)
(1) 「おのみち文学三昧」オンライン開催スタッフ、広報活動